



日本専門新聞特集号

発行 公益社団法人
日本専門新聞協会
編集 広報委員会
住所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-2-12 第2興業ビル
TEL.03-3597-8881 FAX.03-3508-8888
http://www.senmonshinbun.or.jp

入選キャッチフレーズ

日本専門新聞協会は、第77回新聞週間にちなみ「新聞週間キャッチフレーズ」を全国から募集していたが、その入選が次のように決まった。(敬称略)

- 〈優秀作〉**
情報があふれる時代の 専門紙
読み解く記事が 未来を照らす
原田史生(一般応募)
- 〈佳作〉**
不確かな 時代を灯す 専門新聞
持続可能な記事が 未来を拓く
荒木誠治(一般応募)
- 〈佳作〉**
加速する デジタル時代の 専門紙
変革チャンスに繋ぐ情報
細野美和(一般応募)

令和6年
第77回
新聞週間

日本専門新聞大会 フェスティバル

第1部 小林 慶一郎氏が講演



例年、盛況の講演会会場

第77回 日本専門新聞大会

大会アピール

世界では引き続きロシア・ウクライナやイスラエルでの戦争が激化し、収束のめどが立たず、世界経済・環境への影響は計り知れない。一方国内ではここ数年猛威を振るったコロナによるパンデミックはアフターコロナと言われる状況へと変化し、社会生活・働き方にまで影響を及ぼす事態となってきた。

また、生成AIの急速な進展により新聞記事作成など加盟各社にとって大きな経営上の課題となっており、さらには日経平均株価の乱高下、インフレによる資源価格の上昇など相俟って日本経済、企業の事業運営、国民生活への影響はますます不透明となっている。

このような時代だからこそ、信頼性の高い迅速な情報が求められる。我々、専門新聞は課せられた公共的責任を改めて認識し、強靱で持続可能な社会に向け、使命を全うすることを、ここに宣言する。

大会スローガン

- 専門分野のトレンドを、迅速かつ正確でより有益な情報を発信しよう!
- すべての専門新聞への消費税軽減税率の適用を実現しよう!
- 国民の知る権利に応えるため、第三種・第四種郵便制度を堅守しよう!

総勢 18人を表彰

日本専門新聞協会は、新聞週間に合わせて加盟社の社員に対し表彰を行っているが、令和6年度は総勢18名を表彰することになった。

〈表彰〉

功労章	
積田 朋子	(株式会社 観光経済新聞社)
功績章	
小屋 勝志	(株式会社 カーアンドレジャーニュース)
和田 恵	(株式会社 日刊建設通信新聞社)
優良社員表彰	
川端 純子	(株式会社 環境新聞社)
小澤 耕太郎	(株式会社 建設新聞社)
葛西 正和	(株式会社 建設新聞社)
齋藤 充	(株式会社 建設新聞社)
湯澤 貴志	(株式会社 創樹社)

(敬称略)

優良社員表彰	
吉村 知津	(株式会社 創樹社)
原井 佳奈子	(株式会社 中建日報社)
坂倉 宏紀	(株式会社 東京交通新聞社)
森 康重	(株式会社 塗料報知新聞社)
塩澤 治	(株式会社 日本工業経済新聞社)
渡辺 慎也	(株式会社 日本工業経済新聞社)
湯川 勉	(一般社団法人 日本電気協会新聞部)
高橋 恭平	(一般社団法人 日本電気協会新聞部)
山口 翔平	(一般社団法人 日本電気協会新聞部)
田久保 優子	(一般社団法人 日本電気協会新聞部)



小林 慶一郎先生

公益社団法人日本専門新聞協会(入澤亨理事長)は、10月17日に東京・千代田区内幸町の帝国ホテル「孔雀東の間」において「第77回新聞週間 日本専門新聞大会フェスティバル」を開催する。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に留意しながらの実施であったが、新型コロナウイルスが第5類となった今回は通常通りの開催となる。同フェスティバルは、10月15

日から一週間にわたる新聞週間に合わせ、当協会の最大の文化的事業・公益目的事業であり、かつ専門新聞として社会の期待に応える決意を内外に示す事業として開催している。幅広い国民の皆様、専門紙読者、政官界、経済界をはじめ各国大使館など多くの方々を招いているが、時局講演会、式典、レセプションなど多数の出席が見込まれる。

フェスティバル第1部は午後3時30分から、慶應義塾大学経済学部教授 小林慶一郎氏を講師に招き「日本経済の展望と課題」と題する講演会が行われる。

小林氏は、1991年東京大学大学院工学系研究科を修了し、1991年通商産業省に入省、その後1998年シカゴ大学大学院経済学研究所博士課程を修了。経済産業研究所上席研究員、一橋大学経済研究所教授を経て2013年より慶応大学経済学部教授に就任した。また経済産業研究所フェカルティフェロー、キャノングローバル戦略研究所研究主幹などを兼職し、現在に至っている。研究分野、主な関心領域はマクロ経済学、金融危機、経済思想などとなっている。

著書も、日本の経済政策、財政関係、ポストコロナ政策など数多い。

第3部レセプションは午後6時20分に開会し、大塚一雄政治連盟会長の挨拶、来賓祝辞、そしてラッキーカード抽選などが行われ親睦を深める。

第31回 日本専門新聞写真コンクール入賞者

文部科学大臣賞		
送り火(3枚)	山中 健次	一般応募
理事長賞		
習字紙舞う獅子(3枚)	伊藤 良一	一般応募
審査委員長賞		
奇跡	米子久美子	一般応募
加盟社特別賞		
将来の夢は? 建設業!(3枚)	市川 仁史	日本工業経済新聞社
秀作		
高野山(3枚)	相川 頼之	一般応募
国会議事堂	浅越 義弘	一般応募
日本の華火(3枚)	大島 正美	一般応募
壁画も夢を見る(3枚)	小川 慶太	東京交通新聞社
Extraordinary Scenery (非日常の景色)	角田 美穂	大分建設新聞社
13年の約束、3.11(3枚)	門林泰志郎	一般応募
見物(3枚)	忽那 博史	一般応募
ごきげんさん	古閑マス子	一般応募
高原の出会い	小林 猛	一般応募
幼い訪問者	武田 治	一般応募
制止(3枚)	中川 雄喜	一般応募
光の道(3枚)	平野 昌子	一般応募
涅槃像のすす払い	百崎 礼治	一般応募

日本専門新聞大会会長挨拶



専門的メディア集団としての
矜持を!

公益社団法人 日本専門新聞協会
理事長 入澤 亨

第77回新聞週間、日本専門新聞大会フェスティバルの開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。
まずは、能登地方での先月の記録的な大雨による災害は地震災害から立ち上がる被災地の皆様にとって2重のご心労となり、本心が痛みます。一日も早く元の暮らしに戻られることを願って止みません。

さて、本日は公務が多忙のところ、文化庁より国語課長の村瀬剛太様、韓国専門新聞協会より金光卓会長をはじめ多くのご来賓の皆様にお越し頂き有難うございます。
今夏のフランス・パリにて開催のオリンピック・パラリンピックでは日本人選手の活躍により、海外大会では最多となるメダル獲得などは、私たちに大きな感動を与えました。残念ながら平和とスポーツの祭典が終わるや、同じ

ヨーロッパでは未だに収束が見通せないロシア・ウクライナ紛争、中東では更に激化するイスラエルと周辺地域との紛争などに、否が応でも耳目を集めることになりました。
そのなか、今年世界的に重要な選挙が目白押しであり、これまでは各国の与党勢力が相次いで大敗や苦戦に追い込まれています。背景としては既成政党への不信によるところが大きいと思われませんが、とりわけ、来月5日に実施される米国大統領選挙は民主・共和党両候補者が拮抗し、選挙の行方は混沌とし全く予断を許さない状況にあり、動向が大変注目されます。

一方、我が国では自民党総裁選にて石破茂氏が選出され、続く臨時国会で第102代首相に就任。その後、石破首相は衆議院を解散し総選挙を断行し、今後の我が国の舵取り役を国民に信を問うことになりました。
いま、我が国を取り巻く安全確保上の国際情勢は、戦後最も緊迫しています。国内に目を向けますと、株価は1989年に記録した史上最高値を更新し、デフレ脱却やゼロ金利終焉など長年にわたる異常事態から日本経済は正常化しつつありますが、巨額の公的債務残高や社会保障改革、少子高齢化問題、地方創生、あるいは迫りくる巨大地震、多発する自然災害への対応など対処すべき課題は山積しているのが現状であります。
いざいざにしても、新たに国民から負託された政権は全力で課題解決に取り組むこととなります。
ご承知の通り、日本専門新聞協会は平成24年に内閣府から公益法人として認定され、加盟各社の記者取材活動の支援や専門情報の提供、そして、この新聞大会などの公益事業活動を展開しています。
今から65年前、昭和34年に制定の日本専門新聞倫理綱領では、責任・寛容・矜持・気品をもって取材してこそ、専門紙の発展に寄与することが出来るものであると謳っています。一方、情報伝達手段の多数化のなか、

AI(人工知能)技術の急速な進化特に文書や画像などのデータを生成する生成AIは驚異的に進展し、生成AIを悪用したフェイク情報は私達の想像を超えて、広く氾濫・拡散しています。このなか、日本専門新聞加盟各社は、これまで以上に専門的な情報の報道に特化したメディア集団であることを自覚し、今後もその特殊性・専門性を活かした確かな情報を報道し、読者の信用・信頼を得る地まぬ努力が求められているのではないかと考えています。
お陰様で、協会は80年近い歴史と伝統を誇り今日に至っております。これもひとえに、関係諸官庁、諸先輩方並びに加盟社の皆様のご支援の賜物と心より深く感謝申し上げます。
今、時代の大きな転換期のなかで、これからの時代の変化を読み取り、適宜・適切に協会運営に徹していく所存でございます。本年も例年通りレセプションを開催いたしますので、皆様には、是非この機会にお互いに懇親を深めていただきたいと思います。
本日は大変お忙しいなか、多数ご参集賜り厚く御礼申し上げます。
今後共、皆様のご指導並びにご鞭撻を何卒、宜しくお願い申し上げます。

読者総数は1,200万人に

専門分野から厳選された
協会加盟社80社

日本専門新聞大会フェスティバルに
協賛いただいている企業様

<p>株式会社きかんし 電話：03-5534-1234 https://www.kikanshi.co.jp/</p>	<p>有限会社 協同新聞出版発送所 電話：03-3375-3661~2 http://kyoudou-1954.jp/</p>
<p>株式会社晃栄社 電話：03-3814-2646 FAX：03-3812-4365</p>	<p>株式会社サンビジネス 電話：03-3455-5294 https://www.sunbi.co.jp</p>
<p>勝美印刷株式会社 電話：03-3812-5201 https://www.shobix.co.jp</p>	<p>昭和情報プロセス 株式会社 電話：03-3452-8451 https://www.showa-joho.co.jp</p>
<p>情報印刷株式会社 電話：03-3262-5740 http://www.jhopt.com</p>	<p>株式会社東伸社 電話：03-5638-0250 https://www.toshinsha.co.jp</p>
<p>株式会社日刊スポーツ PRESS 電話：03-5550-8210 https://www.nikkansp.co.jp</p>	<p>JAPAN SPECIALIZED NEWSPAPERS ASSOCIATION</p>

役員活動体制

<協会役員・顧問>		
名誉会長	波田幸夫	(環境新聞社)
理事長	入澤 亨	(官庁通信社)
副理事長	石井貞徳	(旅行新聞新社)
〃	積田朋子	(観光経済新聞社)
〃	河合良紀	(建設新聞社)
専務理事	須貝律緒	(日本専門新聞協会)
常任理事	古川興一	(創樹社)
〃	金子眞紀子	(国際農業社)
〃	林 初男	(日本工業経済新聞社)
〃	仁平英紀	(東京交通新聞社)
理事	篠本 勝	(日本水道新聞社)
〃	間庭正弘	(日本電気協会新聞部)
〃	福島真明	(水道産業新聞社)
監事	有馬弘純	(塗料報知新聞社)
〃	秋山智昭	(秋山法律事務所)
顧問	大塚一雄	(金融タイムス社)
<政治連盟役員・顧問>		
会長	大塚一雄	(金融タイムス社)
副会長	岸田義典	(新農林社)
幹事長	小屋勝志	(カーアンドレジャーニュース)
副幹事長	須貝律緒	(日本専門新聞協会)
幹事	長島貴好	(アイク)
〃	積田朋子	(観光経済新聞社)
〃	仁平英紀	(東京交通新聞社)
〃	大林洋介	(教育新聞社)
監査	金子眞紀子	(国際農業社)
〃	秋山智昭	(秋山法律事務所)
名誉顧問	波田幸夫	(環境新聞社)

芝公園のもみじ谷の
モニュメント

『複眼的報道の塔』



時代を見すえ悠久の時を刻む
ソーラー電波時計

平成16年10月、25年後の後進に夢を託し、塔の基礎部分には当協会の歴史と伝統を次の世代に伝えるため、各加盟社発行の記念紙に記念品を添えて収納し建立したものです。
石原慎太郎元東京都知事をはじめ、都議会議長、建設局長等の協力と支援を得て、都立公園では130年と最も古く、由緒ある芝公園内に、ソーラー三面電波時計付き「複眼的報道の塔」を建立・寄贈したものです。



第77回新聞週間 第31回日本専門新聞

写真コンクール

文部科学大臣賞など 入選作品17点決まる

審査委員長講評



関口 照生氏
日本写真家協会会員
倉敷芸術科学大学客員教授

前の路上に並べた魚に水を振りかけた一瞬の作品です。偶然か、写真のマジックか、写真の「川柳」か、まさに「奇跡」の1コマですが、並べられた魚の鮮度が気になります。

令和6年の専門新聞写真コンクールは、協会の皆様、各加盟社の協力により、協会員はもとより、一般読者の皆様の作品が今年も総数1037の
大台の点数に達しました。
嬉しい限りです。

審査は例年通り、関口照生、林義勝、共に日本写真家協会会員の両名が行いました。

最優秀賞、文部科学大臣賞は一般公募の山中健次氏「送り火」3枚組が選ばれました。
炎の強さが送る先祖への畏敬の念と祈りの心へと導き、その炎の中にまた心を鎮める祈りも込められている。炎の色だけで撮られたこの作品は秀逸なモノクロームの作品と共通する奥行きを感じさせてくれました。

理事長賞は一般公募の伊藤良一氏「習字紙舞う獅子」3枚組です。始めて見ました。この習字には何の願いが込められているのでしょうか、3枚組の構成も良く、獅子舞の勢いと動きを止めずに捉え、動と静が感じられる。動画を見ている様な作品です。

審査委員長賞は、やはり一般公募の米子久美子氏「奇跡」です。最速のシャッタースピードで撮ったのでしょうか、港の



このところ3枚組の作品が多く受賞していますが、写真本来の1枚の中に感動が詰め込まれている作品に出会いたく思っています。今後も1枚の作品を真剣に制作する為に対象物との対話を大切に、そして真摯に対峙してシャッターを押してください。期待しています。

加盟社特別賞は、市川仁史氏の「将来の夢は？建設業」が選ばれました。建設業の様々な作業に子供達が興味津々になっている様子を愛情をもって切り取っています。3カット共秀作です。一瞬の表情や動きを捉えるのが上手いですね。
秀作は13点選ばせていただきましたが、今回は力のある作品が多く賞を選ぶのに苦労しました。

公益社団法人日本専門新聞協会は第77回新聞週間を迎えるにあたり、アマチュア写真愛好家および加盟各社の写真・読者を対象に「第31回日本専門新聞写真コンクール」の作品を募集していたが、審査委員会、理事会でそれぞれの入選作品が決定。受賞者は10月17日の日本専門新聞大会フェスティバルにおいて表彰される。



文部科学大臣賞

送り火

山中健次 / 一般応募

和歌山県南部でお盆の行事として行われる送り火。生憎小雨の降る天候でしたが、新盆を迎えた家の家族がお盆に使用した供養の提灯などを海岸で燃やして、亡くなった人の魂を送ります。以前は、海へ流していたようですが、現在は、環境に配慮して浜辺で焚き上げます。このような伝統的な行事は、年々簡素化されたり、場所によっては途絶えてしまっている所もあると聞きますので、大事に継承していってほしいと思います。



理事長賞

習字紙舞う獅子

伊藤良一 / 一般応募

この度理事長賞をいただきありがとうございます。
作品はあきる野市の神社で行われる3匹獅子舞でこの瀬戸岡獅子舞の最大の特徴は獅子頭のたてがみで書き終わった習字紙を使っており踊りも激しいので習字紙が周囲に散らばります。
昨今子供の獅子のなり手が減っており難しくなっているようですが貴重な日本の伝統芸能が続くことを願っています。



審査委員長賞

奇跡

米子久美子 / 一般応募

この度は審査委員長をいただきましてありがとうございます。この作品は釜山の朝市にて開店準備の際に魚売りの女性が魚に水撒きをしている様子です。早朝からこのシャッターチャンスを待ちわびておりました。奇跡的にも魚の形をした水の造形にめぐり会えました。これからも奇跡を信じて撮り続けます。





第77回新聞週間 第31回 日本専門新聞 写真コンクール

加盟社社員・読者及び一般応募 全国から1037点



加盟社特別賞

将来の夢は？建設業！

市川仁史 / 日本工業経済新聞社

多数の作品の中から評価をいただき、誠にありがとうございました。今回の写真は埼玉県内のイベントで、建設業関係の団体や企業が仕事を紹介するブースを取材している時に、子ども達が建機やドローンに興味を持って接する姿を撮影したものです。子ども達の素直な表情や将来性と建設業の可能性を、3枚組で表現しました。これからも取材を通して、建設業の果たす役割や魅力を撮影していきたいと思ひます。



秀作



高野山(3枚)
相川頼之 / 一般応募



国会議事堂
浅越義弘 / 一般応募



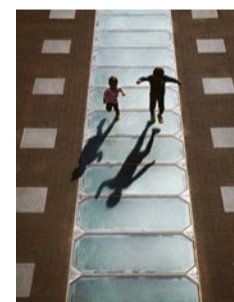
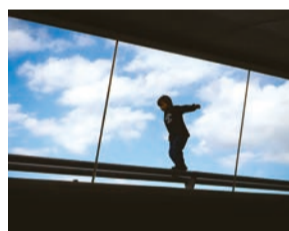
見物(3枚)
忽那博史 / 一般応募



制止(3枚)
中川雄喜 / 一般応募



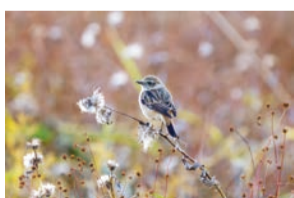
日本の華火(3枚)
大島正美 / 一般応募



光の道(3枚)
平野昌子 / 一般応募



壁画も夢を見る(3枚)
小川慶太 / 東京交通新聞社



高原の出会い(3枚)
小林猛 / 一般応募



幼い訪問者
武田治 / 一般応募



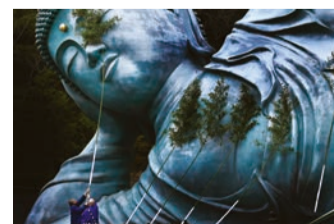
Extraordinary Scenery
(非日常の景色)
角田美穂 / 大分建設新聞社



13年の約束,3.11(3枚)
門林泰志郎 / 一般応募



ごきげんさん
古閑マス子 / 一般応募



涅槃像のすす払い
百崎礼治 / 一般応募